

# 令和6年度 年間指導計画

A科:生物科学科 B科:環境科学科 C科:食農科学科

教科名	農業	科目名	生物活用	単位数	2	履修学年・クラス	3A
担当者	使用教材		生物活用(実教)				
学習目標	園芸作物の栽培に必要な知識と技術を習得する。 加工や活用を実際を知識として身に付ける。 草花や作物の特性と栽培に適した環境を理解する。 品質や生産性を向上できる能力を体得する。						
学習方法	園芸作物の活用方法について、その特性や栽培技術・活用を体験的に学習します。 園芸福祉に関する学習をします。 園芸作物を利用した園芸福祉(花壇づくり・ハーブ・リース)について実践学習します。						
学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨				
	知	知識・技能(技術)	園芸作物と社会動物の活用に必要な知識と技術、園芸と動物を活用したセラピー分野に関する基礎的な知識を身に付け、生活の質の向上や健康の改善を図るための必要な園芸セラピーの活用方法を理解しているか。				
	思	思考・判断・表現	園芸作物と社会動物の特性及び園芸と動物を活用したセラピーの特性や、その利用分野に関する基本的な知識と技術を活用して、生活の質の向上や健康の改善に関する諸課題を主体的に解決していく能力を発揮しているか。				
	態	主体的に取り組む態度	園芸作物と社会動物の特性及び園芸と動物を活用したセラピーの利用分野に関心を持ち、生活の質の向上や健康の改善の向上に積極的に貢献する態度を持っているか。				
定期考査については、上記の観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。							

学期	単元(題材)	学習内容	評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
			知	思	態		
前期中間	生物活用の意義と役割	・生物活用とは何か ・生物活用とプロジェクト学習				[知]草花の種類や特性について理解し、計画を立て積極的に取り組むことができる。 [思]園芸の効果について理解を深め、積極的に活用できる能力が備わったか。また、花壇づくりの楽しみや管理や活用方法、交流活動などについて考える。 [態]暮らしの中の園芸や園芸の持つ効果について、関心を持ち積極的に活用、改善しようとする態度を身につける。	・確認テスト ・レポート ・授業観察 ・考査
	園芸作物の栽培と活用	・植物・園芸と人間生活 私たちの暮らしと園芸 植物・園芸がもたらす効用 ・草花の栽培と活用 草花の種類と特性 花壇の活用と管理	○	○	○		
前期末	野菜・ハーブ栽培と活用	野菜の種類と特性 野菜の栽培 野菜の加工・利用 コンテナ栽培 キッチンガーデン	○	○	○	[知]草花の種類や特性について理解し、計画を立て積極的に取り組むことができる。 [思]草花の効果について理解を深め、積極的に活用できる能力が備わったか。また、草花の楽しみや機能性を理解し、生活を改善することができる。 [態]暮らしの中の園芸や園芸の持つ効果について、関心を持ち積極的に理解しようとする態度を身につける。	・確認テスト ・レポート ・授業観察 ・考査

後期中間	園芸療法	園芸療法 園芸療法とは 世界や日本における園芸療法の実際 プログラムを考える		○	○	[知]園芸福祉の歴史と現状について理解し、生活の質の向上や健康の改善を図るための活用方法を理解したか。 [思]園芸療法および動物介在療法の特徴について理解を深め、積極的に活用できる能力が備わったか。 [態]園芸福祉の持つ効果に関心を持ち、積極的に理解しようとする態度を身につける。	・確認テスト ・レポート ・授業観察 ・考査
	動物介在療法	動物介在療法とは 世界や日本における動物介在療法 プログラムを考える	○		○		
後期末	リースづくり	・リースとその作り方 リースの特徴 材料収集 クリスマスリースの制作			○	[知]コミュニケーションの重要性とそれを行う交流活動について理解し、実生活に積極的に取り組むことができる。 [思]交流活動の目的を理解し、企画を立案する。また実施した交流活動を評価改善し、まとめることができる。また、リースの特徴を理解し、それを表現しようとする。 [態]交流活動の調査等に参加し、他者とのコミュニケーションを図りながら、自己の役割を果たそうとする。また、リースづくりに意欲的に取り組む。	・確認テスト ・レポート ・授業観察 ・考査
	生物活用の実践	・交流活動の心がまえ 交流活動の大切さ 交流活動の心がまえ	○	○	○		
	交流活動の実際	交流活動実施の流れ 対象者の理解 活動計画の立案・実施・まとめ	○	○	○		